

本県における「サチユタカ」・「フクユタカ」の適応性		
[要約]大豆有望品種「サチユタカ」・「フクユタカ」は、「タチナガハ」に比べ、播種期を遅らせても収量及び粗タンパク質含量が高く、晩播適応性に優れる。一方、虫害では晩播ほどダイズサヤタマバエによる被害が多くなる。		
農業総合センター農業研究所	成果 区分	研究

1. 背景・ねらい

規模拡大を進めている大規模農家では、大豆の播種作業が降雨や麦類の成熟期の年次変動に伴い適期より遅れ、収量・品質が不安定となっている。現在の県内の普通大豆の作付けは、タチナガハがほとんどで品種による作期分散も困難となっている。

そのため高品質で晩播適応性に優れる品種を選定し、播種期、収穫期等の作期幅及び晩播における病害虫発生動向について明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「サチユタカ」は「タチナガハ」と比較して、熟期は2日～10日程度遅く、「フクユタカ」は10～20日程度遅い(表1)。
- 2) 「サチユタカ」は「タチナガハ」に比べ、耐倒伏性は並からやや劣る(表1)。百粒重はやや小さいが子実重は6月30日播種から、晩播の7月30日播種まで「タチナガハ」より優る(表1、図1)。
- 3) 「フクユタカ」は「タチナガハ」に比べ、耐倒伏性はやや劣り、百粒重はやや小さい。子実重は、7月10日ごろの播種では「タチナガハ」に劣るものの、それ以降は優る(表1、図1)。
- 4) 「サチユタカ」および「フクユタカ」は「タチナガハ」に比べ、粗タンパク質含量が高く、晩播での低下が少ない(表1、図1)。
- 5) 虫害の発生は品種にかかわらず、播種時期が遅くなるに従ってダイズサヤタマバエによる莢の被害が多くなる(図2)。
- 6) 品質、収量からみた播種期は、「サチユタカ」・「フクユタカ」とも7月10日頃から7月末までである。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「サチユタカ」、「フクユタカ」とも奨励品種決定調査で試験中であり、一般栽培はできない。
- 2) 両品種とも7月10日以降の晩播での品質、収量が優れるため、大規模経営における大豆作の作期分散を図る上で有望な品種である。
- 3) 「フクユタカ」は成熟期が遅いため、後作に麦を作付けしない体系での導入が可能である。

具体的データ

表 1 播種期の違いによる晩生大豆の生育・収量・品質(2002-2003年平均)

品種名	播種期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 (0-5)	最下 着莢 高(cm)	主茎長 (cm)	主茎 節数	分枝数 (本/株)	総実 莢数 (莢/株)	全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	粗タンパク 質含量 (%)	大粒率 (%)	外観 品質 (1-7)	検査 等級 (等)
サチユタカ	6.30	8.15	10.28	2.3	14.9	55.8	15.4	5.0	67.2	67.2	32.6	33.0	44.8	72.3	4.1	1
タチナガハ	6.30	8.08	10.24	2.1	16.5	59.9	14.2	4.8	56.5	59.7	28.1	33.7	41.4	83.2	4.3	1
サチユタカ	7.10	8.20	10.29	1.9	14.0	54.6	14.2	4.0	60.2	63.0	34.2	33.6	44.5	74.7	3.8	1
タチナガハ	7.10	8.11	10.26	1.8	17.1	59.9	13.8	4.3	47.2	56.7	30.1	33.5	38.4	84.7	3.0	1
フクユタカ	7.10	8.26	11.10	2.5	17.6	78.4	17.2	5.5	60.8	61.5	27.8	31.7	43.1	65.3	4.3	1
サチユタカ	7.20	8.31	11.07	0.5	9.2	44.4	12.8	3.7	51.9	51.5	31.8	33.6	47.1	82.4	4.3	1
タチナガハ	7.20	8.23	10.27	2.0	11.8	48.4	12.3	2.9	41.0	48.7	28.5	34.4	40.5	86.0	4.5	1
フクユタカ	7.20	9.02	11.18	0.5	12.2	56.0	14.4	4.8	50.5	57.7	32.5	32.6	46.5	78.4	4.8	2
サチユタカ	7.30	9.02	11.14	1.0	10.3	39.7	12.7	4.2	40.7	45.1	24.6	32.1	45.5	69.4	4.6	1
タチナガハ	7.30	9.01	11.12	0.5	11.0	39.3	11.4	3.9	35.1	38.9	20.5	34.5	39.7	88.0	5.1	1
フクユタカ	7.30	9.10	11.28	0.0	9.9	41.1	12.5	5.2	51.1	50.2	24.8	33.0	48.5	76.0	5.5	2

注 7月20日および30日播種フクユタカは2003年の結果のみを示す

子実重対標準比は同一播種期のタチナガハとの比較を示す

子実重は大豆選別機(K社BR-1型)およびふるい選による

粗タンパク質含量は近赤外分析による(乾物換算、インフラテック1225型GA、タンパク係数6.25)

検査等級は茨城農政事務所による(2003年の結果のみ示す、1:1等、2:2等)

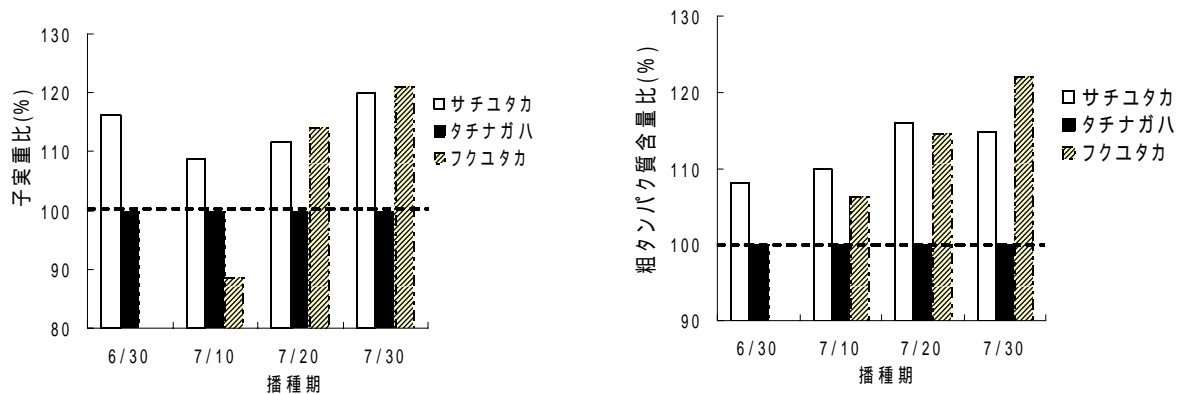


図 1 播種期と収量・粗タンパク質含量の関係(左:子実重、右:粗タンパク質含量)

注: タチナガハとの比を示す、2002年~2003の平均を示す

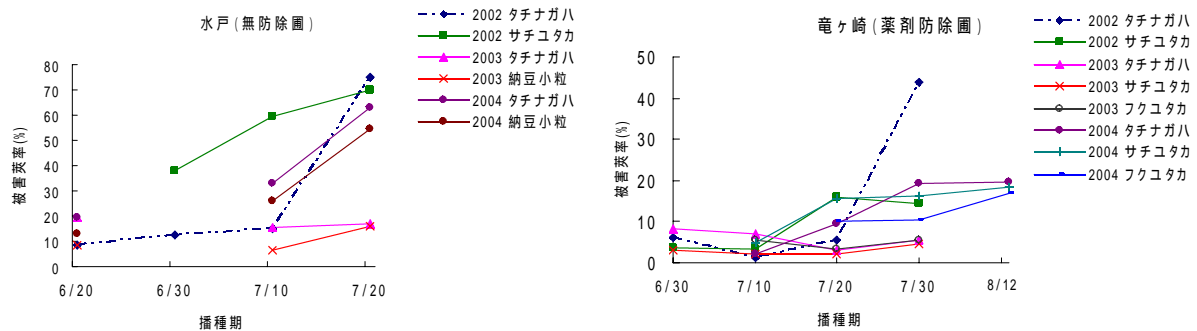


図 2 播種期とダイズサヤマバエ被害率の関係

(左:無防除圃場(水戸)、右:薬剤防除圃場(龍ヶ崎)のデータ)

注: 薬剤防除区では4回程度(7/10まで)、2~3回(8/12まで)防除を実施した

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

大規模経営における大豆の高品質晩播栽培法と飼料イネの低コスト・省力多収栽培技術の確立・平成14~16年・水田利用研究室・病虫研究室